

寸言

川崎重工業株式会社
常務執行役員
航空宇宙システムカンパニープレジデント
下川 広佳



航空宇宙システムカンパニーの現状と今後

川崎重工業株式会社航空宇宙システムカンパニープレジデントの下川 広佳です。当カンパニーの現状と今後について紹介させていただきます。

防衛関連事業では、P-1 固定翼哨戒機について年産5機の生産を順調に進め、平成27年度に受注した20機まとめ買い契約分も12機まで納入を完了しております。C-2 輸送機は昨年度1機の納入を完了し、今年度2機の納入を予定しております。また、当社もブース出展を行いました昨年6月のパリエアショーでは、P-1/C-2が同時に地上展示され、11月のドバイエアショーではC-2が地上・飛行展示されるなど、防衛装備移転実現に向けた官民での取り組みも進めております。

民間航空機事業では、昨年12月にボーイング787の1000号機出荷式典を挙行了しました。777Xについては、GEエンジンの不具合から遅れていたファーストフライトが今年1月に実施され、2021年にエアラインへの初号機納入が計画されています。

BK117ヘリコプターについては、エアバスヘリコプターズ社と共にブレードを4枚から5枚に変えて性能と安定性を向上させた最新型BK117-D3の共同開発を進め、本年6月にはEASAより型式証明を取得しており、今後国土交通省航空局からの型式証明取得を目指しています。

宇宙分野では、新型H3ロケットフェアリングの分離放てき試験を昨年末に完了しております。また、昨年10月には衛星地上局を岐阜工場に開設しました。来年度に実証衛星の打ち上げが予定されているデブリ除去衛星プロジェクトも本格化しており、新たな宇宙ビジネスの立ち上げに取り組んでいます。

防衛エンジン事業では、自社開発エンジンKJ100、さらにこれを2軸ターボファンに発展させたKJ300の開発と事業化へ向けた検討を推進しています。また、ロールスロイス社との契約によるオスプレイ用エンジン

の整備事業立ち上げ準備を進めており、MT30エンジンを含む防衛エンジン運転セルが明石工場で本年8月に竣工予定です。

民間エンジン事業では、Trent1000、Trent XWB、Trent7000、PW1100G-JM、PW1500G/1900Gなど複数のプログラムの量産が本格化しており、増産体制整備と品質安定化に向けた取り組みを進めています。

当社では、航空宇宙システムカンパニーとして航空宇宙事業とエンジン事業を統合してから3年目になりますが、今年度からは、航空宇宙システムカンパニー内に航空宇宙ディビジョン（防衛・民間航空機・宇宙事業）と航空エンジンディビジョン（防衛/民間エンジン事業）を設置し、それぞれのディビジョンにおける自律的経営と意思決定のスピードアップを図ると共に、ディビジョン間のシナジーを最大限に発揮して将来基盤となる新事業創出に向けた取り組みを推進して行く計画にしております。もちろん我々防衛産業に携わる企業の眼下の悲願であります将来戦闘機プログラムの立上げに向けても、当社のこれまでの開発経験を最大限活用いただけるよう積極的に取り組んでいく所存です。

現在、新型コロナウイルスの影響により世界経済はリーマンショック以上の不況に陥り、航空機産業界も未曾有の厳しい経営環境に晒されていますが、こうした状況もこの先必ず終息があり、進化した新たな社会に生まれ変わることになると信じております。我々航空宇宙産業においても、我が国の「国防」の一翼を担い、世界の人々へ「航空機」という移動手段を提供する社会的責任を担った事業に取り組んでいることを誇りに、業界の総力を挙げてこの難局を乗り越えていきましょう。

今後とも皆様の一層のご協力、ご支援をお願い致します。